総括

■　種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■　認定の種別

書面審査および2月14日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■　改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」

該当する項目はありません。

１．病院の特色

貴院は、2014年に大分東部病院に回復期リハビリテーション病棟40床を開設され、2017年に大分リハビリテーション病院へ名称変更され、現在、回復期リハビリテーション病棟2病棟120床で運営している。2019年には病院機能評価付加機能認定を受けている。リハビリテーション科専門医1名をはじめとして、回復期リハビリテーションに必要な専門職を配置してチーム医療を展開している。地域リハビリテーションの考え方を取り入れた病院の理念と基本方針がある。それは職員一人ひとりに徹底され、患者の個別性を重視し、充実したリハビリテーション医療の提供が行われている。同法人の急性期病院や地域の病院との地域連携は強化されている。退院後は、病院からの訪問リハビリテーションや通所リハビリテーション、地域の通所リハビリテーション、在宅ケアセンターからの訪問看護・訪問リハビリテーションなどとの連携がとられ、生活自立支援や就労支援が行われている。急性期病院との連携や退院後の生活支援まで、幅広いリハビリテーションニーズに応じられるよう、組織強化が進められている。地域包括ケアシステム構築のキーとなる病院として、今後のさらなる発展が期待できる。

２．良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病院の理念と基本方針が明文化され、職員や利用者に対して周知されている。365日充実したリハビリテーション・ケアを提供するための各専門職が配置されている。病棟の運営などは「全体会議」や「運営会議」で議論し、「経営会議」で方針が決定され、決定事項は職員へ周知されている。医療安全委員会を中心に、インシデント・アクシデントの振り返り、急変対応教育などが行われている。電子カル

テが運用され、職種毎に評価、データの収集・分析が行われ、病院として活用されている。臨床指標は届出が必要なものを中心に収集している。業務改善に資するデータ活用を期待する。

療養環境については、車椅子などの点検、防犯体制、トイレ・浴室の安全性への配慮がなされている。不潔リネン設置場所の注意喚起の掲示等を期待する。教育・研修は教育委員会を中心に管理・計画され予算化もされている。各職種は職務基準書に基づき研修が実施され、学会発表等の研究活動も行われている。認定資格への取り組みや取得後の役割も明確である。急性期病院との連携は、地域連携パスが活用されている。退院前の家屋調査、退院前在宅カンファレンス、自宅退院後のフォローアップ体制など、退院後のリハビリテーション・ケアの継続にも取り組んでいる。

３．回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

リハビリテーション科専門医１名、専門の異なる医師が、医師間でそれぞれの知識・技術を保管し、入院患者の診療にあたっている。医師は多職種への指導、患者・家族への説明や指導の役割を果たしている。医師は、カンファレンスなどにおいて、チームのまとめ役としての役割を行うことが望まれる。また、学会発表、研究活動など、質の向上に関する取り組みが望まれる。看護・介護職は、役割分担を明確にして日常業務を遂行している。入院時にアセスメントを行い、協働して看護計画を立案し、定期的なカンファレンスで評価や目標、介入計画を更新している。看護計画は健康状態が主となっており、患者の全体像を ICF で捉えて障害増と活動・参加についての計画立案を期待する、介護福祉士が独自に介護計画を立案し、介護展開されることを期待する。今後、看護・介護職の研究活動や論文発表を期待する。各療法士の役割は明確で、それぞれ標準的な方法による評価に基づいて、目標・療法計画が立案されている。早出・遅出による実際のケアの介入や入浴・移動など多職種と協働し、ADL の向上を図っている。社会福祉士は、患者・家族の要望や意向を確認しつつ適切な退院支援を行い、退院後のリハケアの継続に取り組んでいる。管理栄養士は、標準的な栄養スクリーニングと評価、初回カンファレンスへの参加、ミールラウンド、NST 回診などを行い、個別的で効率的な栄養管理を行っている。薬剤師はチームメンバーとして専門性を発揮している。薬剤師による服薬指導の件数の増加を期待する。

４．チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院日に標準化された評価が多職種により実施されている。入院 2 週間以内に初期カンファレンスを実施し、リハビリテーション総合実施計画書が作成され、医師により患者・家族に説明されている。定期カンファレンスは１か月に１回実施され、定期的に課題の評価・検討が行われ、その後、患者・家族へ医師により患者・家族へ説明されている。定期カンファレンスにおいて、各専門職が専門性を活かして、評価・目標設定、介入を行うための取り組みが行われている。一方、各職種が評価・立案した目標や介入を統合したチーム目標設定やそれを達成するための役割

の共有・分担と PDCA サイクルの回し方などに関しては、活動や参加、環境因子や個人因子の観点からの考え方が浸透し、各職種が互いの専門性や役割の理解を深め、患者・家族の希望を踏まえたチーム医療が成熟していくことを期待する。

カンファレンスにおいても、ICF における背景因子を加味した活動・参加促進のための評価や活発な議論を今後は期待したい。療法士の早出・遅出勤務が行われ、１日 6 単位以上の疾患別リハビリテーションが実施され、機能回復のための療法が実施されている。個別リハビリテーション以外にも患者の活動性を高めるレクリエーションなどが多職種で協力して行われ、余暇時間の活動性向上のための支援の再開を期待する。患者固有の問題に対しては、嚥下・転倒・認知などの各種カンファレンスなどが適宜開催され対応が行われている。退院支援や家屋調査が行われ、退院時に見込まれる心身機能、ADL、IADL を踏まえた療養指導、環境整備、介護サービスなどが提案されている。自宅退院後の活動・参加のために、ICF を明示的に活用する取り組みを期待したい。退院後の生活状況把握のため、退院後調査が行われ、院内スタッフへのフィードバックが行われている。

1　良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	Ⅱ
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	Ⅱ
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	Ⅱ
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	Ⅱ
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	Ⅱ
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	Ⅲ
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	Ⅱ
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	Ⅱ
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	Ⅱ
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	Ⅱ

2　回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅱ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅲ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅲ
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	Ⅲ
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.O	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3　チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅲ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅲ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅲ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅲ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ